平成21年度第2回　横浜市立病院等安全管理者会議

日時：平成22年3月11日（木）
場所：横浜市開港記念会館

<はじめに>

市内で起きた医療事故を契機に、市立病院・市大病院・中核病院等に所属する安全管理担当者の医療安全知識向上や情報交換のために、この会議は始まりました。設立から10年目にあたる今年度は、第1回同様、今回行われた第2回でも、市内すべての病院にお声をおかけしたところ、大変多くの病院から参加していただきました。

参加者
　91名

参加病院
　36病院

<研修会内容>

平成21年度第2回目の今回は、2病院から「病院における安全管理の取り組み事例報告」を報告していただきました。その後、各部会の活動報告をしていただきました。さらに、今回は横浜市立大学から、医療安全で有名な橋本廸生先生をお招きし、各報告へのコメントと、最後に「安全管理を組織的に進めるポイント～病院に安全体質をつくる～」と題してご講演をいただきました。

<橋本廸生（はしもとみちお）先生のご紹介>

1975年 東京大学医学部保健学科卒業
1995年 国際医療福祉大学教授
2000年 横浜市立大学付属病院
　　医療安全管理学教授

病院における安全管理の取り組み事例報告

横浜市立市民病院から、『患者参加による医療安全～医療情報コーナーを開設して～』、横浜市立大学附属総合市民医療センターから、『転倒転落発生後の初期対応の標準化への取り組み』をご報告いただきました。

横浜市立市民病院の報告では、医療安全全国共同行動といった、全国的な取り組みと連動させた事例が紹介され、患者参加の重要性と、スペースの問題など、実際に取り組む際の困難さなど、大変参考になりました。また、会場からは、患者さんの待ち時間の有効活用にもつながるのではといった意見も聞かれました。

橋本先生からは、これはリスクコミニュケーションのひとつの方法であり、原子力発電所の例と、医療とを比較したお話が解りやすかったです。
また、アトラスゼネカがこのような取り組みに資金援助している（患者図書室プロジェクト）ことも情報提供していただきました。

横浜市立大学附属総合市民医療センターの報告では、多くの病院で関心の高い、転倒転落に関することだったこともあり、会場からは色々な質問が寄せられました。ある病院では、患者さんを診察した医師によって、その後の対応、処置等が異なるため、対応にバラツキがあるという意見がだされました。報告者は、それらのバラツキをなくすために、この取り組みを始めた。医師が、これは様子をみておけばいいんじゃないか、と言っても、対応を取り決め、院内のルールとして位置づけることで統一した対応をとることが可能ではないかとおっしゃっていました。橋本先生からは、転倒転落発生時に、個人の判断だけでなく、きちんと専門家を交えたリスクの評価とリスクの判断の基準をつくり、それに基づいて対応をしていくのは非常に方法論としてよいことだとのコメントをいただきました。また、このような対応をパスにしている日本医大の取り組みなども紹介していただきました。

（各報告については、資料をご参照ください）

各部会報告

横浜市立病院等安全管理者会議では、5つの部会があり、今回は、放射線部会、検査部会、臨床工学部会から報告がありました。

放射線部会からは、MR検査室に磁性体を持ち込んだ事例などの検討結果などが紹介されました。バルーンカテーテルに磁石が使用されているタイプのものなど、大変参考になりました。

検査部会からは、検査室が関連したインシデント事例の検討結果などが紹介されました。患者さんによる暴力事例や、検査中の子供の預かりなど、どこの病院でも発生しうる事例でした。

臨床工学部会からは、病院に持ち込まれる電気製品についての検討結果が報告されました。あまり明確なエビデンスが無い中、それぞれの病院で対応せざるをえない現状がわかりました。

最近のゲーム機は、通信機能が付属していて、その持ち込みについても話題になりました。

橋本先生からは、これらの部会からの外部への情報発信や、メーカーなどへの改善要求なども行っては良いのではないか等コメントをいただきました。

（各部会の報告については、資料をご参照ください）

安全管理を組織的に進めるポイント
～病院に安全体質をつくる～

橋本先生からは、「安全管理を組織的に進めるポイント」と題してご講義をいただきました。これは、病院で安全管理をすすめる担当者が、一人だけで頑張って疲れてしまうのを防ぎ、いかに院内で他の職種や職員を巻き込んでいくことができるかという視点で講義していただきたい、また、大きな病院だけでなく、中小の病院の担当者にとっても参考となる講義をしてほしいという、かなり難しい注文をおつけしてお願いしたものです。

講義は、時おり会場の笑いを誘いながら、橋本先生のきびきびとしたテンポで進められました。

はじめに、医療安全を語るフレームを持つことの重要性や、医療安全の目的は何かというお話がされました。これは、日々業務に追われる中で、大きな視点から考えを整理したり、他者を巻き込むために考えを解りやすく伝える重要性を再認識させられるものでした。

よく航空の安全から医療安全を考える話をされる方の講義に、個人的にはしっくりこないものを感じていました。橋本先生の、医療はより複雑で、すべてのものをマニュアル化することはできず、マニュアルの無い事象について、自律的に安全な医療を考え、実現できる医療者が必要であり、そのためには医療安全文化の確立が重要であるというお話が、自分の考えの整理に役立ちました。 このように、どのような目的、目標にむかって進むべきかが述べられた後、次に、それらの目標に向かって、具体的な、医療安全を組織的に推進する取り組みについてお話がありました。ただ、それらについては「一般解」であって、絶対的なものではないとお話されました。しかし、色々な事例を交えたお話は、それぞれの病院での取り組みを考える際の大きなきっかけになったり、今行っていることが間違っていないと勇気づけられる担当者の方々も多かったのではと思います。

また、小さな病院で、医療安全がこれからという病院では、とりあえずKYT（危険予知トレーニング）をやってみたらよいのではないかという、非常に具体的で取りかかりやすいお話などもあり、非常に参考になることの多い講義でした。

（講義の内容については、資料をご参照ください）

○アンケート結果（参考）

参加者９２名中、８２名からアンケートを回収しました。（回収率８９．１％）
ご協力ありがとうございました。主な結果を下記にお示しします。

○参加者職種

看護師	54.3%	薬剤師	7.4%
放射線技師	11.1%	事務職	6.2%
臨床検査技師	9.9%	医師	2.5%
臨床工学技士	8.6%		

○『病院における安全管理の取り組み事例報告』について

満足した	26.9%
どちらかといえば満足した	62.8%
どちらかといえば満足しなかった	10.3%
満足しなかった	0.0%

○『各部会の報告』について

満足した	9.0%
どちらかといえば満足した	66.7%
どちらかといえば満足しなかった	23.1%
満足しなかった	1.3%

○『橋本先生のコメント及び講義』について

満足した	68.9%
どちらかといえば満足した	29.7%
どちらかといえば満足しなかった	1.4%
満足しなかった	0.0%

○次回もこの会議に参加したいと思いますか

参加したいと思う	57.1%
どちらかといえば思う	39.0%
どちらかといえば思わない	3.9%
参加したいと思わない	0.0%

○会議メンバー（市立病院や中核病院等）以外の病院の参加についてどう思いますか

参加したほうが良い	95.9%
参加しないほうが良い	4.1%

○各部会にも、会議メンバー（市立病院や中核病院等）以外の病院が参加したほうが良いと思いますか

参加したほうが良い	92.6%
参加しないほうが良い	7.4%

作成：横浜市健康福祉局　医療安全課